



愛知工業大学  
愛知工業大学情報電子専門学校  
愛知工業大学名電高等学校  
愛知工業大学名電中学校

目次:

自由ヶ丘別館完成	2
テクノフェア開催	3
研究室で全賞獲得	4
秋季卒業式	5
世界Jr卓球銀メダル	6
大学野球一部復帰	6
サイエンス大賞	7

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL (0565) 48-8177

# 名古屋電気学園の創立百六周年記念式典

名古屋電気学園の創立百六周年記念式典が十一月九日、若水キャンパス淳和記念館三階記念ホールで、学園関係者、来賓合わせて約百三十人を迎えて開かれました。

「ものづくりを通して人間性豊かで優秀な人材を」

高校吹奏楽部の伴奏で国歌斉唱の後、後藤泰之理事長が「工業大学を中心とする工科系の総合学園には、ものづくりを通して人間性



後藤泰之理事長を囲んで、永年勤続表彰を受けた皆さん



式辞を述べる後藤泰之理事長

豊かで優秀な人材を育てたいという設立当初からの思いがつながってきています。愛知県というものづくりに盛んな地域にあって、そういった姿勢をしつかりと守っていくことが学園の永続性につながっていくと思っています。学園を取り巻く状況が厳しい中、皆さんが一丸となって、学園の発展にますますご尽力いただければ」と式辞を述べました。

四十五年、三十五年、二十五年、十五年の永年勤続者を表彰し、受彰者を代表して大学経営学部経営学



謝辞を述べる藤井勝紀教授

科の藤井勝紀教授（勤続三十五年）が、三十五年前に当時の理事長の故後藤淳先生に面接をしていただいた思い出などを振り返りながら「現在は学生を教育指導していくことが非常に楽しく、同時に研究室の学生を外に送り出すことの大変さをひしひしと感じています。わが学園のモットーである自由・愛・正義を学生に指導していくことの大切さをかみしめながら、全力を尽くして学園の発展に邁進していきたいと思えます」と謝辞を述べました。

## 永年勤続の皆さん

【勤続四十五年】二人

法人事務局財務部会計課主幹

法人事務局総務人事部購買課主査

【勤続三十五年】三人

大学経営学部経営学科教授

高校教頭

法人事務局総務人事部給与研修課課長

【勤続二十五年】八人

大学学長

大学情報科学部情報科学科教授

大学基礎教育センター教授

大学基礎教育センター教授

大学基礎教育センター教授

大学事務局入試センター事務次長

若水事務部事務長

【勤続十五年】十一人

大学工学部機械学科教授

大学工学部電気学科准教授

高校教諭

高校教諭

高校教諭

高校教諭

高校教諭

法人事務局総合企画部総合企画課課長

法人事務局総合企画部総合企画課IR推進グループリーダー

大学事務局キャリアセンターキャリア支援グループ係長

大学事務局研究支援本部事務室耐震実験センター技術職員

倉地久美子  
宮崎 静

藤井 勝紀

後藤 芳樹

森島 映子

後藤 泰之  
伊藤 雅

チャールズ・ケリー

ポーランド・ブルース

マーク・オフナー

ローレンス・ケリー

横井 浩治

石川 裕之

内田 敬久

中野 寛之

石田 彰利

杉田 輝彰

鳥山 竜一

宮口 典久

今枝 一郎

山田 真吾

石原 弘士

浅井 保貴

鈴木 博

しめやかに物故者法要

創立記念式典後、会場を覚王山日泰寺に移して学園の物故者法要がしめやかに営まれました。学園総長の故後藤淳先生をはじめ、この一年間に亡くなられた十人の方々を含む物故者のご遺族が招かれたほか、祭主の後藤泰之理事長をはじめ学園関係者や設置校の学生・生徒合わせ約三百二十人が参列しました。

読経が流れる中、後藤理事長を先頭に焼香の列が続き、物故者の冥福を祈りました。最後に後藤理事長が「先人の方々の学園に対する強い思いを忘れず、われわれ一丸となって学園のますますの発展に努めてまいります」と祭主挨拶を述べました。この後、近くの学園墓地でもお参りが行われました。



故人の冥福を祈る参列者

自由ヶ丘キャンパス 増築棟が完成

学園が名古屋千種区の自由ヶ丘キャンパスで昨年十二月から建設を進めていた増築棟（自由ヶ丘キャンパス別館）が完成し、九月十三日にテープカットをして祝いました。

増築棟は、手狭になっていたキャンパスの教育環境を整えるため、南西隣りの用地を名古屋市から借りて建設しました。鉄筋コンクリート造三階建て、延べ床面積一一八九・一一平方メートル



テープカットする谷口支店長（左）と後藤理事長



完成した増築棟（自由ヶ丘キャンパス別館）

の校舎で、キャリア支援や学習支援を行う学生支援フロアをはじめ、ゼミ室や多目的室、自習室などを備えています。既存キャンパスとは渡り廊下でつながっています。

完成を祝うテープカットは後藤泰之理事長と谷口寛明・清水建設名古屋支店長で行い、後藤理事長が「教育・研究と地域連携へ、今まで以上に充実した取り組みを行ってほしい」と挨拶しました。この後、石井成美経営学部長らの案内で、参列者が真新しい施設内を見て回りました。



八草キャンパスで

学園を挙げて防災訓練

学園と全設置校四校を挙げての防災訓練が今年も十一月八日、教職員と学生・生徒ら総勢五千五百十九人が参加して繰り広げられました。訓練は午前十一時四十四分五十五秒、紀伊半島沖を

地震とするM8.5の東海・東南海連動型巨大地震が発生したとの想定で始まりました。緊急地震速報のサイレンとともに「地震が来ます」の放送が各設置校に流れ、授業中の学生や生徒たちは机の下に隠れるなど退避した後、一斉に避難場所に向かいました。



名電高校で



中高一貫コースで



専門学校で

した。設置校の名電高校、名電中学校、専門学校でも同時刻に連動して訓練しました。

五千五百十九人が参加

八草キャンパスでは合宿寮二号棟一階と鉦徳館一階で火災が発生したほか、五号館実験棟で学生が意識不明となり図書館三階と七号館二階でも学生が負傷したとの想定で、担当者らが救護活動など被害拡大の防止に努めました。設置校の名電高校、名電中学校、専門学校でも同時刻に連動して訓練しました。

後藤すゞ子先生奨学金

学園が制定する「後藤すゞ子先生奨学金」が、九月十月にかけて三件交付されました。九月十八日と二十五日にそれぞれ工学部の学生に、十月二日に情報科学部の学生に交付されました。



9月18日の交付



9月25日の交付

奨学金は元学園長の後藤すゞ子先生の遺志に基づいて設けられ、親の死去など思いがけない理由で学資の負担が難しくなった設置校の学生、生徒が学業を継続できるように支援するものです。交付は八草キャンパス本部棟で行われ、学園、大学の幹部が立ち会いました。後藤泰之理事長が奨学金の趣旨を説明して保護者らに手渡し、学生に「卒業までしっかりと勉学に励んでください」と励ましの言葉をかけました。



10月2日の交付

# 愛工大テクノフェア2018を開催

本学の研究ポテンシャルを一堂に集めて公開する「愛工大テクノフェア2018」が十一月十六日、八草キャンパス一号館を主会場に繰り広げられました。

テクノフェアは産業界・

地域社会との交流と産学官連携研究の推進を目的に、初回の二〇一二年（名古屋電気学園百周年）から隔年で開催が続いています。四回目となった今年も、大学院二研究科、大学三学部七学科十四専攻、総合技術研究所、三研究センターなどの研究から生まれた技術シーズをブース展示し、講演会やロボットミュージアム見学会が行われました。



講演するオークマ株式会社代表取締役社長の花木義麿氏

講演会は、一号館三階メ

ディア視聴覚室で二つの特別講演があり、初めにオークマ株式会社代表取締役社長の花木義麿氏が「IoT時代におけるものづくり革新〜第四次産業革命を支えるスマート工場の構築〜」と題して講演しました。花木氏は、世界のものづくりの潮流を踏まえながら、究極の多品種少量生産を追求するオークマスマートファクトリーの構築について説明。「ものづくりに血道を上げる従来の在り方から、お客様の価値をどう高めるかを考える『ものづくり』から『ことづくり』の創出にこそ、日本ならではのものづくりの進化がある」と結びました。

続いて、本学経営学部長の石井成美教授が「経営戦略実現のためのIoT活用に向けて」と題して講演。IoT導入の目的は「ものをインターネットにつなげるだけでなく、『収集』したデータを『分析』し、将来を『予測』して、『制御』すること」と述べ、IoTをビジネス成果に結びつけ

るための人材育成研修などについて話しました。



多彩な技術シーズのブース展示

一号館三〇三室では工学

部、情報科学部の教授ら六人が技術シーズの話題を提供する講演があり、清家善之電気学科教授が「付加価値を向上させるスプレー製膜技術」、北出幸夫応用化学科教授が「次世代型核酸医薬の創製・マイクロRNAの化学装飾と創薬への展開」、山田章機械学科准教授が「生体医学機器の研究開発」、岩月栄治土木工学科教授が「コンクリート構造物の劣化対策と維持管理技術」、瀬古繁喜建築学科教授が「建築分野における施工の情報化技術」、澤野弘明情報科学科准教授が「二重カプセル構造浮流型機体による下水管内映像撮影」と題して順次講演。企業関係者らが熱心に聴き入りました。

環境に優しいグリーンエネルギーのための新技術開発に取り組む本学の「新エネルギー拠点形成プロジェクト」の中間成果報告会が、愛工大テクノフェア2018の会場となった八草キャンパスで同時開催されました。

# 新エネルギー拠点形成プロジェクト

中間成果報告会も同時開催

環境に優しいグリーンエネルギーのための新技術開発に取り組む本学の「新エネルギー拠点形成プロジェクト」の中間成果報告会が、愛工大テクノフェア2018の会場となった八草キャンパスで同時開催されました。

一号館一階ロビーでのポ

スターセッションのほか、一号館三階メディア視聴覚室で、四件の研究報告が行われました。研究報告会では、プロジェクトリーダーの雪田和人電気学科教授が研究プロジェクトの概要と進捗について説明した後、特別講演として、中部電力電力技術研究所流通グループ長の内田克己氏（本学客



内田克己氏の特別講演

員教員・教授相当）が「中部電力における将来に向けた技術開発とイノベーションへの取り組み」と題して話しました。内田氏は、小売電力事業者が需要家側の「創エネ」「省エネ」「蓄エネ」のエネルギーリソース（太陽光、空調機器、蓄電池、EVなど）をIoTの活用で遠隔統合・制御し、一つの発電所のように機能させるVPP（バーチャルパワープラント）の実例などを挙げながら「データ活用によるさらに高度なサービス提供など、新たな成長分野の確立に向けて、あらゆる角度から研究開発に取り組んでいきます」と述べました。

続いて、水野勝教情報科学科教授が「PVに起因する日射強度予測の検討」、河路友也建築学科教授が「ZEH実現に貢献するツールとしてのHEMS活用法に関する研究」、森田靖応用化学科教授が「有機物が活物質として主役を担う二次電池の世界」と題して順次講演し、活発に質疑応答が行われました。

安井研が日本建築学会設計競技で全賞を獲得

日本建築学会の2018年度設計競技は全国最終審査(公開)が九月四日に東北大川内北キャンパスで行われ、本学建築学科「住・商空間デザイン研究室」(安井秀夫教授)から参加した六組が最優秀賞、優秀賞、佳作四点(併せて学部生対象のタジマ奨励賞を受賞)を受賞しました。全国各支部審査(応募二百八十二作品)と全国一次審査を通過してノミネートされた十二組中、半数の六組が同研究室からの参加で、単独の研究室として前例のない全賞を獲得するという快挙を成し遂げました。



最優秀賞、優秀賞、佳作を受賞した学生たち

本年度の設計競技では

「住宅に住む、そしてそこで稼ぐ」を課題に、住宅が経済活動に参加するためのアイデアを募りました。最優秀賞を受けた駒田浩基さんら四年生四人は「アドバイスをくれた研究室の仲間や先輩方、非常勤の先生の方々、的確な指導をしてくださった安井教授にとっても感謝しています。審査会では思うようにプレゼンができなかったことや自分たちが悩んだところを審査員の方々にしっかり見抜かれていたりしたので、これらの反省点や経験を活かし、これから僕たちが取り組む卒業設計につなげていきたいです」と喜びを話しています。

指導に当たる安井教授は「学会の古谷誠章会長から『東京以外の地方大学に奮起してほしいと審査会を公開し、その成果としてうれしい』と審査講評の挨拶でお言葉をいただきました。すべて最優秀賞を目標に努力してきた学生たちの成果です」と学生たちの取り組みを称えました。

受賞作品

▽最優秀賞

「農蜂の住循環〜ニホンミツバチを媒体とした地域コミュニティの再生〜」駒田浩基、岩崎秋太郎、崎原利公、杉本秀斗(四年)

▽優秀賞

「SETAGAYA RUBAN APARTMENT」生産緑地利用による農村都市形成のケーススタディ」松本樹、平光純子、横山愛理、久保井愛実(四年)

▽佳作

「もったいないー持続可能な生活行動の集積による地域価値の向上ー」浅井漱太、伊藤啓人、見野綾子(院二年) 川瀬清賀(四年) 「未来を稼ぐ水庭〜水路路地のある暮らし〜」田口愛、木村優介、宮澤優夫(院一年) 「建築再生計画ー保田窪団地をリノベーションするー」中村勇太、鈴木里菜、白木美優、中城裕太郎(四年) 「渡り漁業ー季節移住共同体の再考ー」中家優、奈良結衣、七ツ村希、打田彩季枝(四年)

第二回工大サミット

理工系六大学(愛知工業大学、大阪工業大学、芝浦工業大学、広島工業大学、福岡工業大学、東北工業大学)による「第二回工大サミット」が十月二十七日、東京都江東区の芝浦工業大学豊洲キャンパスで開催されました。今回のサミットでは、教育研究改革の取り組み状況やIRデータからみる工科系大学の学生像を発信するとともに、工科系大学の人材育成への期待をテーマに、事例報告、パネルディスカッションを行いました。

文部科学省高等教育局の白間竜一郎私学部長の挨拶の後、六工大学長らによる事例報告が行われました。本学からは、後藤泰之学長の代理として出席した曾我部博之副学長が「内部質保証サイクルにおけるIRデータ」と題し、本学のIRデータの活用体制について報告しました。パネルディスカッションは、小林浩・リクルート進学総研所長による「工科系大学の人材育成に対する期待」と題した講演に続いて



6工大学の学長らが意見交換したパネルディスカッション

行われました。

曾我部副学長は本学の取り組みとして、学生が国際学会へ出席する場合の資金援助(グローバル人材育成支援事業)や、小中学生にものづくりや科学の楽しさを体験してもらうイベント(まるごと体験ワールド)について話をしたほか「工大サミットを通して、各大学の強みについてノウハウを共有できることに期待したい」と述べました。各学長からも独自の取り組みなどについて話があり、活発な情報・意見交換が行われました。

会場外では、各大学によるポスター展示、ロボット研究の取り組みが紹介され、本学が制作協力したスヌーピー型ロボットなどが女性の人気を集めました。

秋季卒業式  
学位記授与式

大学の平成三十年度秋季卒業証書・学位記授与式は九月二十日、八草キャンパスA1Tプラザで行われました。卒業したのは、大学院経営情報科学研究科博士前期課程修了者二人、学部卒業者二十六人の合わせて二十八人。総代の斯欽高娃さんに修士(経営情報科学)の学位記が授与された後、後藤泰之学長が「日々の生活、社会活動を通して社会の発展に積極的に寄与されることを期待します」と門出を祝福しました。これにこたえ、修士(経営情報科学)の学位記を授与された烏仁函雅さんが「学んだ専門知識と、仲間とともに培った人間性、創造性を携え、それぞれの分野で努力し活躍したいと思っています」と謝辞を述べました。



学位記を授与される  
総代の斯欽高娃さん

また、愛工大情報電子専門学校でも単位制移行に伴う九月卒業式が九月十四日に行われました。卒業生は高度情報処理学科二年制課程の二人で、既に就職先が決まっています。校長室で飯吉僚校長が卒業生二人に卒業証書を授与し「学んだ技術や知識を生かし、一層の研鑽努力を積み、社会の発展に貢献できるエースになられることを」と門出を祝う式辞を述べました。

東南大から代表团  
さらなる交流を約束

本学と姉妹校提携を結ぶ中国・東南大学の訪日代表团が九月二十六日、八草キャンパスを訪れました。一行は左惟党委書記を団長とする六人で、後藤泰之学長

が本部棟で出迎え、山田英介・曾我部博之両副学長らも同席して歓迎の懇談会が開かれました。後藤学長は、学園総長・故後藤淳先生の学園葬(七月三日)に東



後藤泰之学長らを含み、訪日代表団の皆さん

この後、建築学院副院長の葛明教授が建築学科で、計算機科学与工程学院副院長の董永強教授が情報科学科でそれぞれ特別講義をし、左書記らは学内を見学しました。一行は同二十五日に来日、本学のほか奈良・京都などにも足を延ばし二十九日に帰国しました。

第五十八回大学祭

第五十八回大学祭は十月六、七日、八草キャンパスで開かれました。時間を忘れて楽しんでもらいたいという願いを込め、今年のテーマは光陰矢のごとしを意味する「Time Flies!」。伝統の工科展をはじめ、クラブ展示や模擬店、ライブなど多彩な催しが繰り広げられました。

継いでください」と学生たちを激励しました。東南大の学生団も 大学祭初日の十月六日、東南大学の学生団が八草キャンパスを訪問しました。一行は、徐進・学生所副所長を団長とする十一人で、五日に中部国際空港に到着し、六日午前に八草キャンパス本部棟で山田英介・曾我部博之両副学長の出迎えを受けました。

工科展はA1Tプラザで開かれ、一般部門と学生チャレンジプロジェクト部門の合わせて三十四団体が出展しました。一般部門については、学生委員による審査の結果、最優秀賞は昨年が続いて二連覇となる松井・武田合同研究室が受賞し、学長杯が贈呈されました。同研究会は、形状記憶材料である合金とポリマーの異なる特性を解説し、実際にどのようなことに利用できるのかを発表しました。このほか優秀賞は知能集積システム研究室と自動車研究室、瑞若会(同窓会)賞は奥川研究室に贈られました。表彰式で、鳥井昭宏教学センター長が「素晴らしい成果を後輩たちに引き

山田副学長は「皆さんにも引き続き大学と国同士の強い絆になっていただきたい」と歓迎の言葉を述べました。これを受け、徐団長が「交流を通して相互の理解をさらに深めることができれば」とあいさつし、これまでの交流の思い出や、互いの近況などについて和やかに話し合いました。一行は懇談後、地域防災研究センターを見学したほか、工科展など大学祭の催しを楽しみました。夜は双方の学生同士でカラオケ交流も楽しみました。七日以降は滋賀や京都、大阪方面に足を延ばし、十日夜に名古屋国際ホテルで開かれた学生交流会に出席、十一日に離日しました。



一部復帰を決めた大学硬式野球部

## 大学野球部が十四季ぶりに一部に復帰

大学硬式野球部は本年度の愛知大学野球秋季リーグ戦で二部Bリーグを七勝三敗の一位で勝ち上がり、二部一位プレオフでAリーグ一位の愛知東邦大学を二連勝で下して四年ぶりに二部優勝を飾りました。続く一部・二部入替戦(十一月三〜五日・パロマ瑞穂球場ほか)で一部六位の愛知大を二勝一敗で下し、二〇一二年春に二部に降格して以来、十四季ぶりに一部復帰を果たしました。

一部昇格を懸けた入替戦第三戦は、愛知大に五先先行される苦しい展開に。本学は土居竜丸選手(四年)の適時打などで点を返し、一点差に詰め寄って最終回の攻防を迎えました。九回裏、一死一、三塁から羽谷勝太選手(四年)の左犠飛で同点に追いつき、なお二死一、二塁の好機に土居選手が右前適時打を放って劇的なサヨナラ勝ちを収めました。

春季リーグ戦四位という



全日本で銀賞に輝いた高校吹奏楽部

## 全日本吹奏楽コンクールで銀賞に輝く

新春一月六日の定期演奏会(センチュリーホール)で感動再び

高校吹奏楽部が、十月二十一日に名古屋国際会議場で開かれた第六十六回全日本吹奏楽コンクールで銀賞に輝きました。

東海支部代表として高校部門全国最多四十一回目の出場を果たし、自由曲には吹奏楽のための交響曲「ワインダーク・シー」(ジョン・マッキー作曲)を選びました。ギリシャ神話の英雄オデュッセウスをテーマにした難曲を顧問の伊藤宏樹教

諭の指揮によりダイナミックに奏で、演奏が終わると同時に大喝采が起る名演となりました。

このほか、同部は十一月十八日に大阪城ホールで開催された全日本マーチングコンテストに東海支部代表として出場し、銀賞を獲得しました。十月七日に金沢歌劇座で開催された中部日本吹奏楽コンクールでも金賞・文部科学大臣賞(一位)に輝きました。

## 名電2選手、世界ジュニア卓球で銀メダル!



田中佑汰選手

2018世界ジュニア卓球選手権オーストラリア大会(十二月二〜九日)で、愛工大名電高校の田中佑汰選手(三年)と曾根翔選手

(一年)が出場した日本男子団体は、二年連続となる銀メダルに輝きました。個人戦では、シングルスで田中選手がベスト8、ダブルスで田中選手・曾根選手がベスト8の成績でした。

日本代表は名電の二選手と、戸上隼輔選手(野田学園高校)、宇田幸矢選手(JOCエリートアカデミー/大原学園)の四選手。団体戦で日本は準々決勝のルーマニア戦から出場し、二番の田中選手が3-0で相手を下すなどストレート勝ちを収めました。二〇一七年と同様に王者中国に挑んだ決勝では、トップの田中選手が一ゲームを先取るも、日本はこの後の競り合いをものにできずストレート負けを喫しました。



曾根翔選手 (いずれも ITTF 提供)

AI・サイエンス大賞開く

最多六十五テーマで発表

科学技術立国を支える若者の育成を目的に本学が制定する研究発表会 AI・サイエンス大賞が十一月三日、八草キャンパスで開かれました。愛知、岐阜、三重、静岡、長野各県の高校生に呼び掛けて論文・作品を募集、成果を顕彰しており、今年で十七回目。「自然科学」「ものづくり」「社会科学・地域づくり」の三部門で過去最多六十五テーマの発表があり、衰えない理系人気を印象付けました。



持ち時間 5 分のステージ発表

午前は一号館や AI プラザでパネル展示発表し、さらに詳しく説明しました。パネル展示の会場では高校生同士が質問し合い、交流と理解を深めました。



パネル展示で交流する生徒たち

内田一教授(自然科学部門)、杉野丞教授(ものづくり部門)、石井成美教授(社会科学・地域づくり部門)ら本学の専門教員二十七人が委員となつて発表の独創性や工夫、コミュニケーション力などを審査し、次の学校・テーマが優

秀賞を受賞しました。【自然科学部門】岐阜県立加茂高校「腹ペコアリと満腹アリの行動学的考察」西日本を中心に拡大するアルゼンチンアリの分布調査とフェロモンを使った駆除。【岐阜県立岐阜高校】守れ！ふるさとのカスミサシショウオウX 生殖行動を誘発する性フェロモンと受容体について。【エクスラン高校】森林生態系の中の放射性セシウム循環について。【長野県軽井沢町を事例に】。【ものづくり部門】名古屋市立向陽高校「ミウラ折りサンドイッチパネルの強度

に関する研究」。【愛知県立岡崎工業高校】「ウォークマシンの研究開発」。【岐阜県立岐阜農林高校】「醤油粕を酸化触媒として利用した使い捨てカイロの開発」。【社会科学・地域づくり部門】愛知県立木曾川高校「地域の宝「イタセンパラ」を保護するための方策」イタセンパラかるた大会の効果。【愛知工業大学名電高校】「情報機器を活用した英語学習のための教具の開発」。【岐阜県立岐阜高校】「守れ！ふるさとのカスミサシショウオウX GIS と環境 DNA を利用した生息地の未来予想」。

故後藤淳先生に名古屋産業科学研究所から感謝状

公益財団法人・名古屋産業科学研究所(名産研) 所長を務めた元学園総長の故後藤淳先生に対し、同財団感謝状が贈呈されました。

産業に関する学術研究を推進する同財団は、昭和十八年に財団法人名古屋航空研究所として設立されて以来、今年で七十五周年を迎えました。後藤淳先生は昭和六十一年から平成二十六年までの間、所長と

して研究体制の発展に尽力したほか、昭和四十八年に研究所の移転問題が発生した際、名古屋電気学園内への移転を快諾し、活動継続を支援しました。

感謝状の贈呈は十月五日に名古屋ルーセントタワーで開かれた名産研創立七十五周年記念式典の席上

行われ、同財団の内藤弘康理事長から学園の後藤泰之理事長に手渡されました。

後藤杯卓球で六百人余熱戦

第四十七回後藤杯卓球選手権大会(名古屋オープン)は九月十五、十七日の三日間、愛知県体育館で開催されました。今回は海外勢の台北チームを含む六百十七人の選手たちが参加し、ピン

ポン外交に尽力した後藤鉦二先生、今年六月に逝去された学園総長・後藤淳先生の

遺影が並んで見守る下で熱戦を繰り広げました。

学園設置校の選手たちは、男子シングルスで愛知

工業大学の松山祐季選手が優勝を飾り、吉村和弘選手と高見真己選手が三位に入賞しました。男子ジュニアでも名電高校の小林広夢選手が優勝し、中村光人選手が三位に入賞しました。また、男子ダブルスでも



1 位の松山選手と 3 位の吉村、高見選手ら

また、男子ダブルスでも上田真実選手が三位入賞の成績を収めました。

閉会式で後藤泰之・愛知県卓球協会会長が「この大会で得た経験を次の試合にも生かしてほしい」と選手たちを激励しました。

上田真実選手が三位入賞の成績を収めました。

野球部員が交通安全運動

本学硬式野球部の部員たちが秋の全国交通安全運動(九月二十一〜三十日)に協力し、愛知環状鉄道・愛知高速交通(リニモ)の八草駅で乗降客に交通安全を呼び掛けました。

愛知県は十五年連続交通死亡事故ワーストの不名誉な記録が続いており、秋の全国交通安全運動期間中、警



交通安全を呼びかける部員たちの改札口の二手に分かれて「ご協力お願いします」と呼び掛けながら乗降客に啓発チラシとウエットティッシュなどの啓発グッズを手渡ししました。

察・行政・市民が一丸とな

って事故の抑止に取り組んでいます。この日、本学硬式野球部からは主務の福知直人さん(四年)ら十二人の部員が参加し、愛知環状

恒例の愛工大駅伝大会

第三十八回愛工大駅伝大会は十一月七日、秋晴れの八草キャンパス内コースに学生・教職員五百七十三人が参加して開かれました。



紅葉の下、一斉にスタート

五百七十三人が健脚競う

チーム)、補給所で受け取ったスイーツを食べながらの新趣向のスイーツ駅伝(二十六チーム)、選手権(三十四チーム)の各部に別れてタイムを競いました。豊田市立大畑小学校の児童二十八人も特別参加しました。



新趣向のスイーツ駅伝

専門学校で交通安全講演会

専門学校で十月十日、一年生が対象の交通安全講話があり、豊田警察署交通課交通総務係の池田剛巡查部長が事故防止の心構えを説きました。写真。

愛知県が十五年連続で交通死亡事故ワーストとなっている不名誉な記録を踏まえ、池田巡查部長は豊田警察署管内の交通死亡事故の実例八件について解説。事故現場の写真や状況図を使い、なぜ事故が起きたかを話しながら「長距離ドライブは楽しいものです



が、適宜休憩を取りながら」「酔っぱらった方は屋外のまさかと思われるところで寝ています。通行する際は十分に気を付けて」などと呼び掛けました。また、記号や数字・文字が入り混じった画面を一秒間映し出し「何が見えたでしょうか」と学生たちに質問。人間は意識して見ようとしない限り、状況を正確に把握できないことを理解してもらいました。

二年連続で春高バレーに



2年連続16回目の春高バレー出場を決め、歓喜に沸く選手たち

高校バレーボール部は十一月二十三日、ドルフィンズアリーナ(愛知県体育館)で開かれた第七十一回全日本バレーボール高校選手権の愛知県決勝大会に出場し、星城高校を3-0(31-29、25-21、32-30)のストレートで破って二年連続十六度目の「春高バレー」出場を決めました。

愛知県予選の決勝を星城高校と争うのは、これで六年連続です。ライバル対決にふさわしく、結果は名電のストレート勝ちでも互いに一歩も譲らぬ大接戦になりました。

春高バレーは新春一月五日、東京・武蔵野の森総合スポーツプラザで開幕します。今夏のインターハイで8強入りした同部のさらなる活躍が期待されます。

市美展で受賞三件

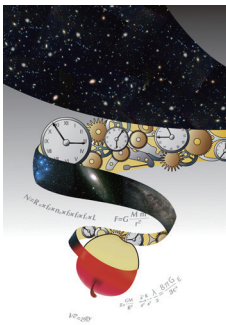
豊田市市民美術展デザイン部で、専門学校情報工学科DTP・Webデザインコース一年の岡田沙也さんが豊田市議会議長賞、今居千智さんが優秀賞をそれぞれ受賞しました。各務原市美術展デザイン・イラストレーション部門でも、同上野延典さんが優秀賞を受賞しました。三人はいずれも初出品で「努力した甲斐がありました」と受賞の喜びを話しています。



岡田沙也さんの作品



今居千智さんの作品



上野延典さんの作品